

# 市町村未来づくり交付金自己評価調書

## 1 事業群評価調書

団体名：八幡市

重点目標	<p>「自然と歴史文化が調和し 人が輝く やすらぎの生活都市 ～自立と協働による個性あふれるまちづくり～」</p> <p>八幡市の主要課題                  人権を尊重しだれもが輝く地域づくり、これからの”八幡”を担う人づくりの推進                  地域資源を活かしたまちづくりと新しい都市イメージの形成                  みんなが安心して暮らせるまちづくりの推進                  活力あふれる人がつどう交流のまちづくりの推進                  健全な行財政運営と協働によるまちづくりの推進</p>		
	事業群	構成事業名	
	安心して暮らせる安全で快適なまち ～安全・安心、都市整備～（事業群 f）	男山レクリエーションセンター整備事業	
		健康遊具整備事業	
事業群全体による 成果の概要	<p>○男山レクリエーションセンター整備事業                  子どもから大人までが健康増進と交流を行う拠点となる「憩いの場」を整備することで、恵まれた自然環境のなかで、世代を超えた交流を行うことができ、市民が住みよいまちづくりに寄与した。</p> <p>京都・大阪の都心部から比較的近い立地条件ながら、みどりに囲まれた良好な環境の中で、市内外の交流の場として、市内外の利用者にとって、今後も重要な役割を果たす施設として整備を行えた。</p> <p>○健康遊具整備事業                  高齢者にも使用可能な軽い運動のできる健康遊具を設置することで、高齢者の健康増進に寄与するとともに、子どもから高齢者までが世代を超えて交流するコミュニティの場を提供できた。</p>		
	※本年度の成果について、客観的な数値により評価できる場合は下欄に記入すること。また、複数の指標がある場合は適宜欄を追加すること。		
	成果指標		実績値
	指標式等		

(記載要領)

- 1 重点目標、事業群ごとに本様式を作成し、評価するものであること。
- 2 成果の概要については、できる限り客観的な数値によること。

## 2 個別事業評価調書

団体名:八幡市

事業名		男山レクリエーションセンター整備事業			
事業の概要		自然、歴史、文化等の特性を活かしながら、幅広い世代が「憩いの場」として利用できる地域交流拠点、また広域的にも集客力のある公園として市民や来訪者の交流の場となるように男山レクリエーションセンターの機能強化に努めた。  男山レクリエーションセンター整備事業 整備詳細設計業務委託 多目的コート整備工事(テニスコート新設) コート造成 683㎡ ネット工 112m コート照明工 6基 身障者用スロープ整備 駐車場舗装 多目的トイレ設置			
	事業期間	平成22年6月1日～平成23年3月24日			
	総事業費	239,054千円	本年度事業費	96,999千円	交付金交付額
事業評価	事業の必要性	スポーツに親しむ市民等の利用定着を推進し、世代間の交流をはじめ市外よりの来訪者とのふれあいの場となるように整備する必要がある。 また、これまでも憩いの場としての役割を果たしてきたが、施設の老朽化が進むとともに、利用者の興味が年々変化したことにより、施設の更新が必要となった。			
	事業の有効性	自然環境との調和を図りながら、子どもから大人までが健康増進と交流の拠点となる「憩いの場」として整備することで、市民が住みよいまちづくりの推進となる。			
	事業の効率性	平成20年度から3ヵ年で整備することにより、レクリエーション施設だけでなく、トイレ改修やスロープの設置など、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる施設全体のリニューアルを果たした。結果、市内外の来訪者の交流の場として、現在のニーズに見合った、より魅力のある施設となり、利用者の増加につながった。			
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果			
		2 住民の自治意識を高める成果 子どもから大人までが健康増進と交流を行う拠点となる「憩いの場」を整備することで、恵まれた自然環境のなかで、世代を超えた交流を行うことができ、市民が住みよいまちづくりに寄与した。			
		3 リーディング・モデル成果			
4 広域的波及成果 京都・大阪の都心部から比較的近い立地条件ながら、みどりに囲まれた良好な環境の中で、市内外の交流の場として、市内外の利用者にとって、今後も重要な役割を果たす施設として整備を行えた。					
5 行財政改革に資する成果					
6 その他の成果					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。

## 2 個別事業評価調書

団体名:八幡市

事業名		健康遊具整備事業					
事業の概要		高齢者にも使用可能な軽い運動のできる健康遊具を設置することで、高齢者の健康増進に寄与するとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代がふれあう場として、公園の機能強化に努めた。					
		健康遊具設置工事 くすのき近隣公園 3遊具 背伸ばし ぶら下がり、ストレッチ あらかし近隣公園 3遊具 ツイストチェアー、平行棒、座位体前屈					
		事業期間	平成22年8月20日～平成22年10月22日				
		総事業費	4,662千円	本年度事業費	4,662千円	交付金交付額	1,500千円
事業評価	事業の必要性	高齢者の健康増進を図り、公園での世代間の交流等のふれあいの場を整備する必要がある。					
	事業の有効性	高齢者にも使用可能な軽い運動のできる健康遊具を設置することで、高齢者の健康増進に寄与するとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代がふれあう公園となる。					
	事業の効率性	既存の公園内に健康遊具を設置することにより、従前からの公園利用者の新たな公園利用方法となるだけでなく、これまで公園を利用していなかった人が来訪し、新しい交流の輪が広がることが期待できる。					
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果					
		2 住民の自治意識を高める成果					
		3 リーディング・モデル成果					
4 広域的波及成果							
		5 行財政改革に資する成果					
		6 その他の成果 高齢者にも使用可能な軽い運動のできる健康遊具を設置することで、高齢者の健康増進に寄与するとともに、子どもから高齢者までが世代を超えて交流するコミュニティの場を提供できた。					

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。